

俳句

たかはしきんそう

高橋金窗

岩国市・柳井市
(1902～1987)



【著作】

句集『五軒谷』（昭和45・岩国同人句会）
句集『土穂石』（昭和58・同人社）

【参考文献】

『防長文学散歩』和田健（白藤書店）
『岩国文学百年史』大岡昇（岩国市立図書館）
『五軒谷』高橋金窗（岩国同人句会）

（文・中澤辰江）



（岩国市吉香公園）

蟲に忘れられてイちゐるひとり

金窗



（岩国市通津公民館敷地）

燈を消せばやみ乃千鳥の遠からず

金窗

高橋金窗 年譜

（提供・中澤辰江）

『五軒谷』巻末自筆年譜参照

句碑より

蟲に忘れられてイちゐるひとり

（昭和31年岩国市吉香公園）

かすむことの山々高き竝べけり

（昭和35年大竹市小方中学校）

燈を消せばやみ乃千鳥の遠からず

（昭和38年岩国市通津公民館敷地）

露山堂のふかきひさしの翳も秋

（昭和50年山口市香山園）

明治35（一九〇二）年	一五歳
大正6（一九一七）年	二二歳
大正14（一九二五）年	二二歳
昭和2（一九二七）年	二二歳
昭和4（一九二九）年	二七歳
昭和7（一九三二）年	三〇歳
昭和8（一九三三）年	三一歳
昭和12（一九三七）年	三五歳
昭和13（一九三八）年	三六歳
昭和15（一九四〇）年	三八歳
昭和16（一九四一）年	三九歳
昭和18（一九四三）年	四一歳
昭和19（一九四四）年	四二歳
昭和20（一九四五）年	四三歳
昭和21（一九四六）年	四四歳
昭和23（一九四八）年	四六歳
昭和24（一九四九）年	四七歳
昭和26（一九五一）年	四九歳
昭和34（一九五九）年	五七歳
昭和35（一九六〇）年	五八歳
昭和36（一九六一）年	五九歳
昭和39（一九六四）年	六二歳
昭和41（一九六六）年	六四歳
昭和44（一九六九）年	六七歳
昭和45（一九七〇）年	六八歳
昭和47（一九七二）年	七〇歳
昭和48（一九七三）年	七一歳
昭和55（一九八〇）年	七八歳
昭和58（一九八三）年	八一歳
昭和61（一九八六）年	八四歳
昭和62（一九八七）年	八五歳

1月5日、和歌山市で士族の次男として生まれる。
『同人』主宰青木月斗に師事。
大分高等商業学校卒業。愛媛県立八幡浜商業学校に教諭として赴任。
和歌山歩兵第六十一連隊に一年間志願兵入隊。
岐阜県立大垣商業学校教諭。
俳誌『新樹』を主宰発行（昭和14年）。
『同人』選者、岐阜日々新聞俳壇選者となる。
月斗から金窗と命名される。『新樹第一句集』発行。
講道館柔道二段。
福岡市立福岡商業学校教諭。
山口県立萩商業学校に着任。
第一回応召、大隊副官、經理委員（京城第二十三部隊）。
召集解除、山口県立防府商業学校教諭。
高等官五等従六位。
第二回応召、機関銃隊長（馬山部隊）。10月復員。
山口県立岩国商業高等学校校長。「岩国同人句会」設立。
俳誌『石人形』を創刊、主宰（昭和42年休刊）。
広島県立大竹高等学校創設のため転任。
広島家庭裁判所調停委員、佐伯郡学校組合立芸南中学校長。
『同人』雑誌選者となる。岩国家裁、地裁、簡裁調停委員、参与員、司法委員。
大竹市立小方中学校（芸南中学校改名）を病氣退職。
岩国市文化功労賞受賞。
読売新聞防長俳壇選者、岩国少年刑務所特志面接委員。
山口県警察本部『防長警友』俳壇選者。
岩国少年刑務所教化活動に対して法務大臣感謝状を受ける。
3月、岩国俳句協会を結成、会長となる。
7月、句集『五軒谷』（岩国同人句会）刊行。山口県文化功労賞受賞。
山口県選奨規定県知事賞受賞。
8月、柳井市に転居。
山口県俳句作家協会会長に就任（昭和62年）。
「土穂石句会」設立、指導者となる。
句集『土穂石』（同人社）刊行。
柳井市文化功労賞受賞。
3月31日逝去。